有松まちづくりの会役員会　（1月23日）

有松まちづくりの会は昭和48年2月に発足し50年となります。重伝建に選定され、その後日本遺産にも認定されました。有松のまちの中で有松まちづくりの会の目指すもの、役割について、組織の若返りをはかると共に、5月の総会に向けて皆で検討していくとの認識を共有しました。

有松日本遺産運営協議会・実行委員会　（12月27日）

令和４年度より日本遺産事業の産地による自立・自走が求められています。令和６年度までの日本遺産認定継続審査に適合するよう、有松日本遺産委員会の組織強化が必要との観点から話し合いが行われました。具体的には、事務局から「絞りまつり実行委員会を母体とする」ことが提案されましたが、結論は出ず継続検討となりました。

有松天満社元旦祭準備（12月18日）・注連縄掛け(30日)

一の鳥居前の幟

真冬並みの寒さの中、三町総代及び福年会の皆さんで元旦祭の準備が行われました。9時前、社殿前に多くの人が集まっていました。

それに先立ち、滑車幟(のぼり)のポールが新調されたので、三役の方は幟の取り付け方を教わりました。７m程の幟が空を舞っていました。

例年通り、中町は幟旗と提灯の取り付け、西町は古札納所づくり、東町はテント等準備を行っていました。リーダーの方を中心に慣れた手つきで作業が進められ、１時間半程で終えていました。

今年の幟が藍色のためか天満社全体が藍色、絞りの里に相応しい景色となりました。

社殿前の様子

テント設営

左:幟旗作業・右:提灯作業

〈準備作業の様子〉

古札納所づくり

準備作業を見学させていただき、天満社がいかに地域の皆さんに支えられ

ているのかが分かりました。

30日には、牛未会（昭和17・18年生まれの厄年会）の皆さんの手で三の鳥居に注連縄が掛けられました。「注連縄の寄進を始めて約40年、毎年欠かさず続けられた」と、代表の山口弘さんが感慨深げに話してくださいました。

この日文嶺講の皆さんも元旦祭準備に忙しくしていました。

注連縄掛け(左:山口さん/右:松岡さん)　　下の参道

有松天満社　元旦祭　（1月1日～3日）

暖かい穏やかな夜でした。年が改まる30分ほど前に上の参道は人でいっぱいに、カカウントダウンの頃には下の広場まで列が延びていました。年が改まると同時に参道から歓声が聞こえてきました。拝殿前では一昨年と同様に参拝が始まりました。

記者の耳に並ぶ人の声が届きます。家族連れでしょうか「何をお願いするの」「家内安全、いや平和でありますようにかな」時勢をあらわしているようです。

参拝者の皆さんをお迎えするのに忙しく動き回っているのは文嶺講の皆さんです。「行ってくるな。カウントダウンは１分前からだから」こう言って出かけた総代長の鈴木さん。参道で皆さんをお迎えする天狗世話役の川勝さん、他にも受付のテントや焚火の周りでおもてなしに汗を流していました。

↑上の参道　　↑　下の参道

↑拝殿前

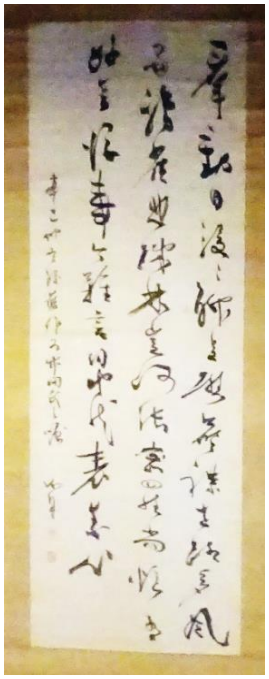
有松天満社左義長（1月14日）

雨の降りしきる中、上の広場では古札等が燃やされていました。９時前から鈴木総代長はじめ文嶺講の皆さん10数名が古札納所片付けや御神酒の振る舞いに忙しくしていました。古札やお守りを火にくべるべく訪れる人も途切れることがありません。今年は近隣のスーパーの店長さんが店で回収した古札等を持ってきていました。

三が日の人出は約8千人、昨年よりお賽銭は増加との事。作業後の焼き芋は旨かった。

有松と美④　竹田家と勝海舟・芹沢銈介

●　勝海舟の掛け軸



　勝海舟の書を軸装したものが、洋間西隣の床の間に掲げられている(右写真)。竹田嘉兵衛氏にお伺いすると、「家に海舟の掛け軸が4本あり、その中の1本にだけ署名がある。それを掲げた」と。余りの達筆に、昔、大学の犬飼守薫先生に解読していただいた。

「明治14年11月に竹田氏の依頼により書き記した」

　文章として、概ね次のようなことが記されている。

「明治維新後、世の中は急速に進んでいく。今しばらくは世俗的な名誉や利益で慰めよう。カラスやスズメは逃げ隠れる。どうして目の細かい網(厳しい法律)を張って、小鳥たちを捕まえることなどできようか。未来のことは今は言いにくい。本心を表したい」

　右のビゴーの風刺画は有名である。自由民権運動の高まりに対して、壮士を警官が取り締まる。やがて明治14年には、10年後の国会開設が約束され、大隈重信が政府から追放された。

　「明治十四年の政変」のその年に、この掛け軸は書かれている。壮士をカラスやスズメの小鳥に例えた海舟の政府への想いがこの書から感じ取れるのではないだろうか。

●　芹沢銈介の風呂敷

　洋間の南側、1間半の廊下を挟んで広間と次の間があります。その広間の床の間に鯱(しゃち)の絵が掲げてあります。描いたのは芹沢銈介氏。民藝運動の大物です。昭和34年(1959)、民藝運動の全国大会が名古屋で開かれたとき、参加者へのお土産として絞りの風呂敷が作られました。その下絵を軸装したものです。しゃちは名古屋を表し、鈴は民芸協会のマークです。

　民藝運動とは？　1926年(大正15)開始された。日常的な暮らしの中で使われてきた手仕事の日用品の中に「用の美」を見出し、活用する日本独特の運動。「民藝」とは、民衆的工芸の意である。運動の中心人物は柳宗悦・濱田庄司・河井寛次郎ら。

藍染の絞り　片野元彦･かほりの仕事（2022年9月13日～12月4日）豊田市民芸館

戦後、有松で藍染絞りを再興する上で大きな役割を果たしたのが片野元彦氏であった。若い頃画家の岸田劉生に師事し、のち日本民芸館創設者の柳宗悦にこの地で有松絞りの再興を託されたのであった。彼と長女かほりの仕事を紹介する展示会が豊田市民芸館で行われた。当時「その土地の生産を育成し、指導してこそ民芸協会の意義を発揮するのだ」との柳の意向を受け、片野が有松の職人と連携して取り組んだ様子が映像や作品、書簡等で紹介されていた。

片野元彦の作品

片野元彦とかほり

《お知らせ》

まちなみ美術館(コンソーシアム有松主催)が3/2(木)～3/5(日)竹田家で「片野元彦の世界」を開催します。

NHKBS Journeys in Japan（1月4日）彩り豊か 名古屋たずね歩き で有松放映

2年前に有松あないびとの会で外国人おもてなし研修会の講師をされたヨピス エリザベスさんが、有松を散策する様子がNHKBSで放映されました。

写真家でもあるヨピスさんは、新旧が交差する有松が大好き(写真左:302高架付近)。制作体験ができるのも有松の魅力(写真右:彩 Aya Irodoriにて)と紹介。椅子に座って絞りができるように道具を工夫し、伝統工芸を今に広める活動を進める絞り職人の大須賀 彩さんが写し出されていました。

川口廣次の有松街並情景画③

朝焼けの笹加

催事･行事の予定

2月05日(日)　07:00　愛知県知事選挙
2月20日(月)　18:00　有松町並み相談会　コミセン
2月25日(土)～3月21日(火祝)　有松福よせ雛さんぽみち　有松東海道一帯・同実行委員会
2月26日(日)　07:30　かえで道清掃　有松まちづくりの会
2月26日(日)　15:00　上方落語九雀亭　寿限無茶屋
2月27日(月)　10:30　おこしもんづくり　カフェ庄九郎　コンソーシアム有松
2月27日(月)　18:00　有松まちづくりの会役員会　コミセン

発行者　竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会　会長)
編集者　加藤　明美(有松まちづくりの会　広報部長)
pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。